

## 2022《前期》構音・吃音指導講座 参加者『一言感想』集

参加者34名中、実に30名の先生方から『一言感想』をいただきました。『一言感想』といながらも、お帰りの短い時間の中で、本当に多くの感想、指導中のお子さんに対する想いのあふれる感想をお寄せいただき、本当に、本当にありがとうございました。

また、この感想【含：梅村の感想への感想や質問に対する回答】を、相談室のHPに掲載することをご了解いただきありがとうございます。

2022【前期】構音・吃音指導講座 参加者人数《累計；34名》

北海道	0	東北	18	関東	13	甲信越	0	北陸	0
東海	0	関西	2	中国	1	四国	0	九州	0

### 【お断り】

- ① 行替えは、本文と異なる場合があります。
- ② ※○○の記述、及び、【●●】内の記述は、梅村の感想・意見です。
- ③ ご本人の記述（書体=HG丸ゴシックM-PRO）の中で、赤文字にした部分は、他の方にも考えて頂きたいと思える内容です。
- ④ 構音記号は、旧記号です。ご了承ください。
- ⑤ 個人名は、所属を含めて全て記入しておりません。ですが、おおよその職種があったほうが良いと考え、以下の4種に分類し、番号の後に記しました。

A：通級指導教室（ことばの教室） B：病院・福祉関係の言語聴覚士

C：歯科クリニック関係 D：その他

なお、自己申告で、次年度から通級指導教室とあった方は、Aにしました。

### 01A

側音化構音の指導となると、とても苦手意識があり、上手に進めることができないでいます。今日、ビデオを見せていただき、置換音の指導とかわりがないと感じました。

先生の子どもの心をつかんだ指導の様子、とても参考になりました。子どもとの関わり方、とても勉強になりました。

ゴールデンウィーク明けの指導に少しでも活かせるようにしていきたいと思います。

### 02A

児童の構音改善がなかなか進まず、何かヒントを得られればという思いで、今日初めて参加させていただきました。

普通の授業では、45分間をコーディネートするので、色々と余計なこともやっているのかなと感じました。先生の舌の体操不要論や“できるだけ早く終わらせる”というスタンスが印象的でした。

動画で[tʃ]と[tʃi]を評価する部分がありましたが、私には聞き分けが出来ませんでした。また、子音の/t/や/k/というのは、そもそもどういう音なのだろうという疑問が残りました。(それだけを発音しているつもりでも母音/a/や/u/が付いてしまうのでは?という)

※ [tʃ]と[tʃi]に限らず、音の評価ができないことは、決定的に構音指導ができないことを意味します。大至急、「音の聞き分けができ」さらに「音を言い分ける」ことのできる先生から指導を受けて下さい。ややもすると、新しい構音障害を先生が作り出すことになりかねないですよ。決して脅かすわけではないですよ。

このような、構音指導の根本にかかわる問題は、その場で質問して下さるとよかったです。『自分が分からないことは、他の人も分かってないのだ』と考えてもいいですよ。

### 03A

側音化構音の指導のポイントや指導の根拠を丁寧に解説いただきました。子どもの実態把握や評価が参考になりました。

子どもとの関係づくりの様々な方法やその意図を指導者がしっかりもつことの大切さを改めて感じました。

### 04A

今年度から、ことばの教室を担当することになり、何か1つでも学べることがあればと参加させていただきました。

映像を用いつつ、お話していただけたことで、ただ言葉を聞いて理解するよりも、イメージしやすかったです。子どもとの向き合い方についても、考えを出し合いながら進めたのも良い機会でした

難しいなと思うことばかりですが、**子供たちが楽しみながら通える かつ 発音も改善していくようなかわり**を目指して頑張れたらと思いました。

### 05B

発達障害のお子さんの構音指導で、どうしてもその子の行動面ばかりに目がいき、構音については、おろそかになっていたのでは…と反省しきりです。やりたがらないのは、それがつまらないことだったからなんだと改めて、子どもとの関係や方法を再考し、実行してみようと思います。子どもは待つはくれない、お母さんや子どもの貴重な時間を頂いているということを肝に銘じながら。※とても大切なことに気がつかれたと思います。

## 06A

研修の開催ありがとうございます。コロナ禍で、なかなか研修の機会がないので、貴重な場でした。

1回でも早く指導が終了できるように、「一単語できるようになったら会話に般化できるような手続きをしていく」ということを指導に取り入れていきたいと思います。

※ 後期講座では、「般化への手続き」をしっかりと視聴していただく予定です。

## 07D

初めて通級担当になり、この会に参加させていただきました。毎日、ことばの教室に通う子どもたちにどのように指導していくか、とまどいがありました。言語発達の子も達を直してあげたいという梅村先生の一つ一つの言葉に、「なるほどー」と思う一日でした。先生に教えていただいた基本は、「構音障がいの子もたちの指導」を心にとめて、今後に生かしていきたいと思います。

## 08B

一人体制のことばの教室で、ずっとやっていたので大変勉強になりました。

まねっこ活動も、ほんとにひとつひとつ（一回一回）が意味あることに改めて思い知らされました。

昨年度から、幼児ことばの教室を担当し、小学生でできていたことが、幼児にはなかなかうまくいかず、とてもとても落ち込んでいました。「まねっこ」の指導でこんなに上手にできるようになることを知り、少し気持ちが明るくなりました。少しでも取り組んでいけたらと思います。

## 09A

吃音を直すという意味がよく分かりました。

※ どのようにお分かりになったのか、それも記入していただきたかったですね。残念！

## 10B

指導音の選択で『正音がみられないから選択する』が、選択肢のはずだったのに、疑心暗鬼の保護者に指導効果を示すなら、正音がみられる音の般化という選択をしてきたのだなど…。

※ それってありだと思いますよ。通級・通室・通所意欲に関わるわけですから！

改めて、HPにある論文等を夜に読み直し、知っている事と、理解している事と、使える事は異なるのだと反省しきりでした。

やはり、臨床家で私もいたい（なりたい）と思います。

※ いや、そのことを反省できる。それで十分に臨床家だと思います。知っているだけのことをできるかのように話す口だけ臨床家の如何に多い事か！

## 11A

初めて参加しました。先生のお話を聞き、夢中でノートに書きました。メモした量は一日で40ページ近くにもなりました。これから現場に戻り、学んだことを見直し、自分のものにしていきたいと思います。

※ 次回参加される時は、是非、メモを取ることを200%止めてみてはいかがでしょうか。  
別の世界が垣間見えるかもしれませんよ！

## 12A

初めて参加させていただきました。

とにかく、最初の感想は「目からウロコの思いがしました」という一言です。構音指導、吃音指導ともに、大事なポイントがたくさんあり、本質をつかんで欲しいという先生のご指導に、どこまでこたえられるか分かりませんでした。少しでも子ども達、保護者に還元できればと思います。

子ども達のやる気を引き出し、前向きに取り組む姿勢を大切にされる指導に、少しでも近づければ(まだまだ足元にも及びませんか)と、思います。

実践ビデオや実技など、たくさん学ばさせていただきました。

## 13A

新しい気づきを得る事ができました。※ どんな新しい気づきだったのでしょうか。

最近、録画されたもののオンラインでの講座が多いので、他の指導方法への批評など、本音がお聞きできたのが、懐かしく感じました。

子ども達のビデオを、たくさん見せて頂きました。それぞれの課題と対応が、私なりに理解できたと思っています。うまくいって、ほっとした時の子ども達の嬉しそうな表情が素敵でした。私の近くの子ども達に、この笑顔を増やしたいと強く思いました。

そのためにも、批評をくり返される場面を、もったいないと感じました。どうしたら良いか、教えていただいても、すぐ理解し実践できないかもしれませんが、その時間を、指導ポイントを1つでも多く知りたかったです。

※ 先生のご指摘の通りです。注意します。

## 14A

“側音の指導は難しい”というイメージが自分の中に固く定着していて、なかなか離れられません。梅村先生のお話を伺った直後には、自分にもできるかもしれないと毎回思えるのですが、実現するには、実際にお子さんに関わる経験を、もっと積まなければいけないと実感しました。

声を合わせて文を読む練習は、初めはとても難しく思いました。ただ、不思議なことに、回数を重ねていくと、ペースとトーンを合わせることの感覚が少しずつ分かってきたように感じました。実際には、吃音のあるお子さんが対象なので、このように進めることは難しいことは間違いなく、道は遙かだと思いました。

側音・吃音ともに治る!! 【いや、吃音は直らない場合もあります】ことを梅村先生にお示しいただいたことをエネルギー源として、努力していきたいと思えます。

## 15B

貴重なお時間をありがとうございました。ケースの子にぜひ、と考え拝聴しておりましたが、実技経験を踏まえないと使用するのは危ないとのお話で、確かにな、と思いました。

せっかくの手技(しかも有効な)ですので、実技中心の講座を経て臨床(実践)OK など、別日で(GW 期間中など間を置かないで)してもらえると、ケースの方へすぐ対応できるのにな、と思いました。(お忙しいところ大変恐縮ではございますが…)

※ よろしかったら月1回開催している山形言語臨床教育研究会に参加してみは?

## 16B

吃音指導について。

今まで、吃音の症状に目を向けてばかりで、**子どもの楽な発話に目を向けることがなく、反省しました。**子どもを見る視点が学べて良かったです。

※ 2022後期吃音指導講座でお会いしたいものです。

## 17D

非常に勉強になりました。共調発語指導について、もっと知りたい・勉強したい気持ちになりました。

## 18A

- たいへん有意義で充実した2日間でした。コロナ感染の予防のこともあり、自由に動けない中、2年半ぶりに新幹線に乗ることが出来ました。
- 構音指導の中で「花丸ポーズ」は子どもにとっては声が出しやすいことその他、リラックスできると思えました。びいさんの指導で、びいさんががんばったため、発音が不正確になったシーンがありました。子どもは担当(担任)の前で常に緊張を強いられているので、力を抜くのがとても難しいと感じます。関係を築くことや、その子をよく見ること(性格も含めて)今の様子を読み取ることをベースにした構音練習をし、それには子どもがリラックスする(脱力?する)ことを目指したいと思えます。

- ことばの教室では、常に楽しく活動しながら、課題解決がなされていることを心がけていますが、構音練習は楽しいものではありません。[先生の楽しんで発音も正しくなる【先生の想いが詰まった言葉と受け止め、敢えて修正はしませんでした】](#)というのは、自分にとっての理想の形であり、目指しているものです。ほんの少しでも近づく努力をしていきます。
- 今週末からの構音指導を、変えなければならぬと痛感しました。
- 吃音について  
確かに、伊藤伸二先生などは「吃音でない自分は自分ではない」とおっしゃったりしていますが、どもって話していないのはなぜ？と、割り切れない気持ちがありました。梅村先生のお話で、はっきりしました。  
実技研修が厳しかったけれど「絶対OKもらうぞ」という気持ちでがんばりました。

## 19A

### 構音指導講座

貴重な指導場面をたくさん見せていただき、ありがとうございました。私には、目指す姿とそれに向けた関わり方が、ぼんやりしていることが分かりました。特に、関わり方については、もっと具体的にイメージしておかないと、子どものペースに合わせすぎたり、子どもが次へと前に進まなかったりするのだと思いました。[tʃi]の指導を大事にしていきます

こんな時は、どうするか・こうするか、ヒントをいただきました。「～しましょう」と言わないようにしようと思いながら、言っていることにも気づきました。

なるほどと思えたことは、固執しているとき(物に)外に気をそらせながら、カウントダウンで止めさせるところや、負けるなどの負の感情は、さらっと手短かに淡々となさっているところなどが、参考になりました。

VTRを見せていただき、イメージがより具体的になったのは、とても助かりました。ありがとうございました。

### 吃音指導講座

声を合わせることの難しさ、[合わせることのこちよさ](#)を体験できてよかったです。

## 20A

- 子どもとの関係性について取り上げていただいてありがとうございました。  
「×に弱い子」の中で、子どもがお母さんの後ろからのそいでいない時に、こちらから「おいで」と声をかけると“命令”になるとのお話に、関係性についてとても緻密に分析されている、と感じました。私もおそらくタイミングをとらえて「おいで」と声をかけると思いますが、こちらの誘いにのらなかつた場合は、まだまだ気分がのらなかつただけだろう、くらいにしか考えないだろうと思います。このように、子どもとのやりとりの中で、とらえ方が甘い部

分があります、ので、今後、もっと細やかに見ていくことを、心がけていきたいと思いました。

※ そうなるには、自分の指導を見てもらい、忖度の無い、歯に衣着せぬ評価を受けることです。よろしかったら月1回開催している山形言語臨床教育研究会に参加してはいかがでしょうか。

- 映像を通して繰り広げられる斬新な指導場面に、心を奪われてばかりで、その中に込められている意味や意図を理解するためには、自分ももっと構音の仕組みなど、構音指導に関する基本的な知識が必要だと痛感しました。
- 吃音について、先生が吃音は治すスタンスで考えられている理由について、おうかがいできたことが、有難かったです。(その点が、ずっとモヤモヤしていましたので)そして、何よりも実習で先生方に直接見ていただいたこと、とても勉強になりました。

## 21A

ことばの教室担当になり、4年目の者です。実際の指導の場面を見せていただき、ありがとうございました。特に側音化構音の指導で、[tʃ]から指導を始めること、大変勉強になりました。

それから、子どもへの声かけや対応の仕方です。子どもがわがままを言った時、やりたくないとき、泣いた時、ゲームで負けた時など、正直困っていました。なんでこの子はこうなんだ…と子どものせいにしていましたが、悪いのは私の方だったのだと気づきました。構音指導がうまくいかないのも自分のせい、と今までの自分の対応の悪さに反省しています。

## 22B

「側音化構音はなおりにくい」「吃音も個性」と扱われることが多くなってきた中、先生は側音化はなおる。吃音も良くしなきゃと言って下さったことに安心しました。

## 23A

2日間の日程についていけるか少し不安でしたが、梅村先生のご講義に引き込まれ、あっという間でした。まだまだ学びたいくらいです。

実際の指導場面を数多く見ていただいたおかげで、先生の声かけ、ご指導の意味深さまで考えさせられました。瞬時の判断は、ご経験の長さだけでなく、すべてが準備されているものだと思います。子どもはいろいろな球を投げってきますので、それに対して、いろいろな受け方、投げ方をこれからもっともっと学び、少しでもよい球を投げ返せるようにしたいと思います。

## 24A

今回、吃音指導講座に参加させていただきました。

吃音を治すことを否定する考えではありませんが、直接指導は、下手をすれば吃音をさらに悪化させてしまうという思いや、いろいろな方のお話しや参考書を拝見しても、直接指導について記されているものには、なかなか出会えず、いつも迷いながら指導にあたっています。指導者の声のトーン、速さに気をつけ、吃音が出にくくなるよう環境調整をすること、子どもとの関係を深めながら、話す楽しさや自分の良さに気付かせていくことなどを主として、指導をしてきましたが、今回、共調発語指導について、ほんのさわりのところだったと思いますが、どのようなねらいで、どのようなことを行うのかを学ばさせていただきました。茂くんの楽に読んでいるところは、ほとんど当たらず、自分の聞く力がまだまだ育っていないと痛感しました。午後からの、相手に声を合わせる研修でも、難しかったのですが、**ちょっとずつ合うようになって、気持ちよさを感じる**ことができました。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

## 25B

今回、講座を開催していただきありがとうございました。

以前より、you tube 動画を拝見していましたが、実際に「ここがポイント、こうなっている」など、構音の見るべき点が、何となく見ていたところから、発見がありました。たくさんの事例動画で子どもが正音を獲得していく過程を見ることが出来たのは、説得力があり感動しました。次回、後期も是非参加したいと思います。

## 26A

### ・構音

「い列音」が側音化の時は舌の脱力をして「い」から練習する等を今まで学んできました。梅村先生が「ち」から指導すると知り、今日のお話を聞くまで「どうやってやるのだろう？」と思っていました。話だけでなく実際の動画でその「証拠」を見せていただき、「ち」から入ることに納得しました。また、ゲームを通して、子どもが楽しくいつの間にか、構音点と正音を獲得していく姿を見て、自分のこれまでの指導を反省しました。単調になりがちで面白みのない練習では、子どもが飽きたり集中が続かなかったりしてしまうのも、無理はないなと思いました。「個性に応じた対応」も動画で実際の場面を見られて、とても参考になりました。もっと、梅村先生の指導の実際を見てみたいです。側音化の「に」や「さ行音」「ざ行音」口蓋化構音、鼻咽腔構音なども機会があれば教えていただきたいです。とても充実した1日目となりました。

## ・吃音

午前中に見せていただいた、**あやのさんの笑顔**が出た時には、泣きそうになるくらい私も嬉しい気持ちになりました。私も、子どもも親も喜んでもらえるような指導者になりたいと思いました。「ジャックと豆の木」の課題はほとんど分かりませんでした。自分の不勉強さに気付きました。You Tube で何度も聞いて、楽に声を出せていることが分かるように復習したいです。

午後の演習は、色々な地域の色々なイントネーションの方々と練習することができて、ありがたかったです。子どもの読み方は、多種多様ですから、もっと極めて自分もいつか実践できるようにになりたいです。秋も必ず参加します。よろしくお願いします。

※ 吃音のある子どもであれ大人であれ、あやのさんの“あの笑顔”で語り合ったり笑いあったりしたいのが本音なのではないでしょうか？

## 27A

### 〈構音〉

前回、この講座に参加した後、指導を全部見直すつもりで取り組みました。対面形式にする、語頭単語からのわたりの指導で語中単語や文、会話の指導まで一気にやるなど、毎日の指導にとっても役に立ちました。舌まねっこの指導は、同じようにやっているつもりが全然できなくて、指導がフラフラしてしまい、結局、平舌の練習に戻ってしまったりなど、かえって時間がかかってしまいました。※ 指導者の迷いは、子どもに不安を抱かせます。

今回の講座を受けて、自分に不足している点がよく分かりました。子どもから試されている場面で敗北して関係を崩していること、子どもの意識をちゃんと指導者に向けさせることができないこと、舌まねっこの、あわよくば課題音を出させようという意図が、**子どもにバレバレ**なことなど…。

ひとつひとつの動作の意味や声かけの意図など、梅村先生に聞かれても即答できないだけでなく、その場面自体を見落としていたりしていました。常に考えながら、その場で判断するのを、もっと**感度とスピード**をあげてできるように、取り組んでいきたいです。

### 〈吃音〉

茂さんの課題、楽に声を出しているところがどこか、大はずれでした。答えを聞いても、まだどこで判断するか難しかったです。午後の声を合わせる演習では、“子どもが楽に声を出せるようにするための指導者の読み方を練習する”ということ自体、今までやったことがなかったので、目からうろこでした。ただ、中途半端な理解で、子どもを指導すると逆に吃音を悪化させる恐れがあるとのこと。自分が指導できるようになるまでは、どのように指導を行ったら良いのか、ますます難しさを感じました。

## 28A

- コロナ禍の中、講座を開いていただいたことに感謝を申し上げます。私自身、自分の指導力不足を感じながらも、コロナ感染拡大防止のための休止が度々あることを、改善出来ない理由にできてしまっていました。今回指導していただいたことで、自分の誤りに気付かせていただき、大反省致しました。
- 正直、毎回通ってきてくれる子どもと家族の方に、申し訳ないです。定着していく音を作っていなかったこと、細かな所を模倣させる集中させたいところなはずなのに、前できたからと先に進み崩していたことなど、自分の甘さを変えたいと思いました。
- 今回、私が苦手意識の高い「ke」の音づくりを豊富なVTRで、側音でも置換でも早い時期に、自然に出させることができることがよく分かりました。私の模倣のさせ方との違いがはっきりし、構音でも関わりでも、どのレベルなら許容するのか、どんな気付かせ方をするのか（「一歩引いてあえて静かに」のような対処、「よく見て」と言わずに注目したくなる対処 etc）具体的に分かったことも良かったです。どんな子に対しても共通するところ、その子だから意図的にしていることを、課題を通して見つけられたことも楽しかったです。（4例を見分けられるようになったことは、これまで教えていただいた成果だと思い、自信にもなりました。）
- 吃音については、「自分の声の出し方をその子に合わせて変えられないと指導できない」と課題意識があり、待望の講座でした。茂君の楽な発音の課題は、自信をもって「これ」と言えるものが分からず、情けない気持ちになりました。でも、今日は「あっ!」と手がかりをつかんだ気がするので、You Tube でトレーニングしていきたいと思います。
- 声質、タイミングを合わせると、合った感覚を感じとれ、音読が楽しかったです。

## 29B

梅村先生のお話を伺いながら、普段の私の臨床姿勢を反省させていただきました。特に「ちゃんと真似しようとする心のプロセスを大事にすると、自分で自分を変えていく力になる。子どもを育てる視点で構音や吃音の指導をする。」というお話がとても印象に残りました。

いわゆる、舌平らの練習等は誤り音と結びついている舌の癖を、一度フラットにして、正構音を獲得しやすくする目的で（少なくとも私は）行っていました。梅村先生のお話を伺って、舌平らの練習は、ともすれば「できないこと」からスタートする練習になってしまうように感じました。（勿論、現在可能な舌運動から始めれば（?）、そのようなことも少ないとは思いますが）

※ どのような場合であっても、不必要な指導はしないことです。例えば、本来「舌平らの指導」は必要ありません。バタフライポジション等々舌運動に関わる指導は、全く必要ありません。なぜなら、『[tʃi] (チ) の [t] の構音運動』と『[ta] (タ) の [t] の構音運動』は同じ構音運動です。同じだから同じ記号になるわけですね。違うのであれば、記号も違わなければなりませんよね。ですから、[t aiko] (タイコ) と構音する時、[t] が側音に

ならないのであれば、舌自体には全く問題はない訳です。何ら問題のない舌に対して、どうして訓練や練習が必要なのでしょう？

子どもが、**今できていることから始める**というやり方が、構音や吃音だけでなく、子どもの人格形成も視野に入れて指導を行う場合、大事なのだと、改めて感じることができました。又、構音を治すのは、セラピストではなく、子ども自身であり、セラピストは子どもが構音を治すのを支える(出来る限り最短経路で)役割だということを肝に銘じたいと思います。今の**子どもが持っている力を**、しっかりとセラピストが見て、**その力を信じる**(というとかなり概念的な言い方ですが)ことが、側音・吃音指導で大切なように感じました。

### 30A

今まで、本などで勉強してはいたものの、実際に構音が改善していく様子を、何人もしっかり見せて頂き、とても沢山のことを学ばせてもらいました。

自分も更に実力を向上させて、一回でも**短い期間で**正しい構音を、子どもに身につけさせることができるようになりたいと強く思います。

吃音の指導についても、**子どもの笑顔が見られる映像**もあって、とても心に残りました。実際に、音読の練習も見てもらい助言もいただき、本当に勉強になりました。

今回、来させてもらって本当に良かったです。ありがとうございました。

#### <梅村から：吃音指導講座の一言への一言>

**子どもの楽な発話に目を向けることがなく、反省しました。**

どんなに目立つ頻度の多い吃音であっても、発話量全体から見れば、単語頻度検査の場合、約90~95%は吃っていません。吃音のある方の困り感を推し量るには、確かにDisfluencyに目を向けることは必要かもしれませんが、でも、Fluencyの獲得を目指す指導、または治療として発話の状況を検査・分析をするならば、如何に楽な発話で話や音読を行っているかを知ることの方が、臨床的だとは思いませんか？

**ちょっとずつ合うようになると、気持ちよさを感じる**

**合わせることのここちよさ**

上記の**三つの言葉**に触れ、講座を開催して良かったと、心から思えました。ありがとうございます。勿論、表現は違えど、同じ趣旨の文にも触れたことは言うまでもありません。

感想にはありませんでしたが、「声を合わせる練習」の際、先生方の中から出た

**「まだ私、観てもらっていません！」**の声に、密かに感動していました。